

1 背景と目的

背景

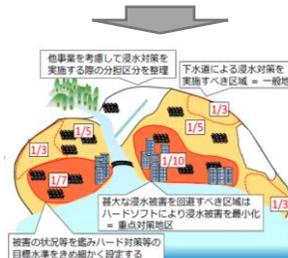
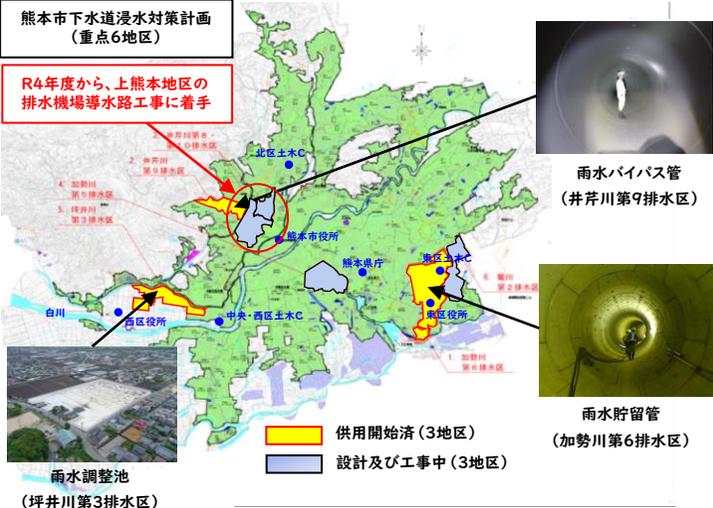
- 気候変動の影響により、雨の降り方が激甚化・頻発化。
- 「流域治水」への転換が必要とされており、ハード整備に加え、ソフト対策を踏まえた浸水対策の推進が求められている。

本市の状況

- 重点6地区の浸水対策を進めており、3地区の施設を供用開始。
- 残り3地区についても設計や工事に着手している。

熊本市下水道浸水対策計画 (重点6地区)

R4年度から、上熊本地区の排水機場導水路工事に着手



3 本計画で定める主な内容

気候変動の影響を考慮した計画降雨の設定

- 「雨水管理総合計画策定ガイドライン(案)」を基に降雨強度を見直す。

- 気候変動の影響を考慮し、ハード整備に用いる計画降雨に2℃上昇を考慮した降雨量変化倍率1.1を乗じる。
 $60\text{mm/h} \times 1.1 = 66\text{mm/h}$
 $68\text{mm/h} \times 1.1 = 75\text{mm/h}$

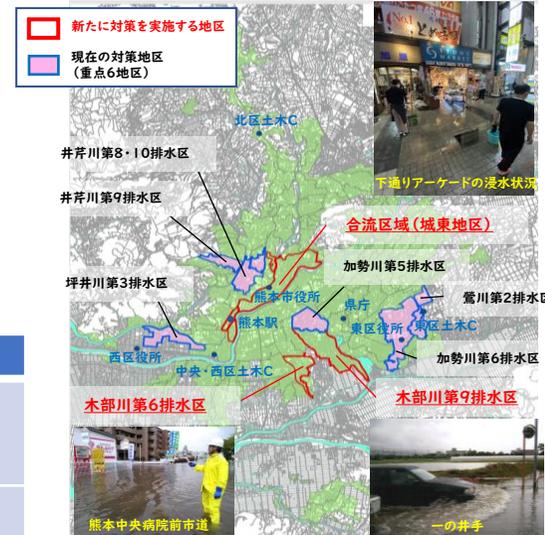
対象降雨	降雨強度
計画降雨L1	5年確率 66mm/h 10年確率 75mm/h
照査降雨L1	既往最大降雨 (H28.6.20実績降雨) 94mm/h
照査降雨L2	想定最大規模降雨 153mm/h

新たな対策地区(3地区)の選定

- 市街地165地区を評価し、浸水被害が大きい3地区を選定。

	低	中	高
都市機能集積度	リスク低	リスク中	リスク高
浸水リスク	リスク中	リスク高	リスク最大

対策地区	計画降雨L1
木部川第6排水区	5年確率 66mm/h
木部川第9排水区	5年確率 66mm/h
合流区域(城東地区)	10年確率 75mm/h



目的

気候変動の影響を踏まえたハード整備とソフト対策が一体となった内水対策を進めることで、安全安心なまちづくりを実現。

2 現在進めている浸水対策計画との違い

現在の計画

今後の計画

計画名	熊本市下水道浸水対策計画	(仮称)熊本市下水道浸水対策計画2023
整備水準	市内一律 5年確率 60mm/h	浸水リスクや都市機能集積度に配慮した地域ごとの水準
対策地区の選定基準	浸水実績	浸水リスク、都市機能集積度
対策内容	ハード整備	ハード整備+ソフト対策
対策地区	重点6地区	重点6地区+浸水被害が大きい3地区

4 今後のスケジュール

- 令和5年度に本計画を策定し、令和6年度から10年間で浸水対策を実施。

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
(仮称)熊本市下水道浸水対策計画2023		R5計画策定	新たに選定した3地区									
			重点6地区									

R10中間点検